25年の歴史に幕
第14回創作市民劇

2月25日(日)、市民会館大ホールにて、第14回創作市民劇『謝名』が公演されました。

創作市民劇は、隔年ごとに公演され、宜野湾市内の各地域にまつわる歴史や伝承・伝統文化財等を題材にしています。平成4年度から続いている創作市民劇は今回の『謝名』をもって25年の歴史に幕を下ろします。

今回公演された『謝名』は、総勢約100人の区民・市民が熱演し、観客を魅了しました。

～古から伝わる歴史・文化が過去・現在・未来を繋ぐ～

【あらすじ】

現代に生きる三人の主人公『名歩(なお)』『太(たいち)』『祐(ゆう)謝』。ある日、三人は、遠い過去の時代へと遡る不思議な旅に出てしまった。主人公の一人「名歩」は琉球王朝以前の時代で目覚め、大謝名の地にて青年期の「察度(さとと)」に出会う。名歩は、謎の老人から古き時代の文明を教わり、やがて察度を慕う多くの民と共に「琉球王国」の開国を目の当たりにする。また一人、「太一」は、大正末期の大謝名で一人の青年「ケンジ」と出会い「豊年祭」を通じて獅子舞や棒術、綱引きなどを見聞きし当時の風習を知る。その一方で大御嶽に貧し、生活苦でありながらも困難を乗り越えていこうとする人々の中で、太一はケンジに将来の「夢」について諭され強い友情が芽生えていく。最後の一人の主人公「祐謝」は、戦時中の時代で経験したことのない時を過ごしていた。沖縄地上戦が迫ろうとする大謝名で、大切な人と出会い「愛」と「夢」を語らい「命」の大切さを知る。

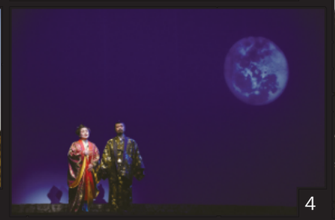
夢見のような不思議な旅を終えた三人。生まれ育った大謝名には、遙か昔より数多くの先人達と共に創造し、あらゆる困難を乗り越え、大切に育んできた歴史と文化があることを知る。そして三人は、内なる希望を胸に秘め、それぞれの未来を歩み出す。

3

2

1

5


4

10

7

6

9

8

12

11

①衣装に袖を通し、出演の準備 /②現代で一人の老人と出会う /③琉球王朝以前の時代にタイムスリップした名歩は青年期の察度に出会う /④琉球国の国王となった察度が真鍋樽と語り合う /⑤雨乞いをしている大謝名の住民たち /⑥⑦太正時代の大謝名にタイムスリップした太一に食糧をあげる青年ケンジとその仲間たち /⑧沖縄戦の時代、無邪気に遊ぶ子どもたち /⑨疎開のために離れる家族と別れを惜しむ /⑩戦争で命を落とした友人を抱え悲しむ祐謝 /⑪戦時中、日本兵に防空壕から出て行けと罵倒される住民 /⑫現代に戻った名歩たちは、過去の時代で老人に手渡した手ぬぐいを手にして驚く

■創作市民劇の軌跡―
25年の歴史をポスターで振り返ります